

王さまだつてぜんぶは信じられない

オーストリア

昔むかし、あるところに、王さまがいました。王さまは、人のいうことを何でも信じました。

あるとき、王さまは、こんなおふれを出しました。

王が信じられないことをいえる者に、姫と結婚させて、王の位をつがせよう。

世界じゅうから、たくさんの人がやって来ました。そして、王さまに、なんだかんだと出まかせのうそ八百をならべました。けれども、王さまは、いつも、

「さもあるう」とうなずいて、みんな信じました。

ハンスという若者が、この国を旅していました。あるとき、王さまが信じられないようなことをいえば、お姫さまと結婚できるという話を聞きました。ハンスは、

（よし、運試うんだめしをしてみよう）と思いました。

ハンスはさつそく、お城に出かけ、王さまの前に進み出ていいました。

「王さま。わたくしが、王さまが信じられないようなことを申し上げましょう」

「よからう。ただし、わしが、おまえのいうことを、一から十まで信じたら、おまえの首をはねさせるぞ」

ハンスは、承知しやうちして、話しはじめました。

「あるとき、わたしは、畑に麻あさの種をまきました。そしたらどうでしょう、わたしの足もとから芽が出て来て、教会の塔くらい高く伸びたんです」

「なるほど、さもあるう」と、王さまはいいました。ハンスは続けました。

「それで、わたしは、麻を上ってみることにしました。それが実にうまくいきました。麻はとても太くがっしりしていて、まっすぐ空に伸びていました。てっぺんに着くと、目の下に、町や村、牧場や池や森、山や谷、小さい川、大きい川が見えました。とつくりながめたので、下りようと思いました。ところが、さあたいへん、うっかり足をすべらせて、落っこちちゃって、二十フィートも地中深くめりこみました。これにはたいへん面食めんくらいました。そこで、精いっぱい急いでうちに帰って、スコップをとって来て、苦心くしんさんたん、地面の中からわたしを掘り出して、へとへとになつてうちに帰ったんで

すよ」

王さまは、

「さもあるう」とうなずきました。ハンスは続けました。

「そのあくる日、また畑に行ってみると、麻はもつと伸びて雲まで届いていました。そりやほんとにぶったまげました。わたしは、かねがね、一度天国に行ってみたいと思っていたので、これはチャンスだと思いました。でも、まだ高さが足りないように思ったので、二、三日してからもう一度畑に行っただけです。それから登り始めたんですよ。天国に着くまで、まるまる一年かかりました」

王さまは、

「さもあるう」とうなずきました。ハンスは続けました。

「天国は、すばらしいところでした。どこもかしこも壮麗そうれいで、何を見ても感心するばかりで飽あきませんでした。天使が頭の上を飛び回っては、すばらしくきれいな歌を、神さまをたたえる歌を歌っていました。そこで、おおぜいの古くからの知り合いに会いましたよ。みんな、とびきりいい着物を着て、銀の馬車で走り回っていました。それに、うれしいじゃありませんか、わたしの親たちが、金の馬車に乗って遠乗りをしていたんですよ。さらに歩いて行くと、王さまの父上と母上にお会いしました。ああ、王さま、それがあわれなことに、ぼろを着てぶたの群れの番をしているんですよ」

「うそだ！」と、王さまはどなりました。「そんなところを見てもいなくせに」

「とんでもない、たしかにこの目で見たのです」と、ハンスは、笑いながらいいました。

「でも、いいですか、お約束やくそくをわすれないでくださいね。お姫さまと結婚させてください」

王さまは、それでもこの話を信じようとしませんでした。それで、ハンスは、お姫さまと結婚して、王の位をつぎましたとき。

おしまい

村上郁再話

資料『世界の民話28 オーストリア』飯豊道男訳／ぎょうせい